

復習シート 第2学年 国語

埼玉県学力・学習状況調査



1 次の——線部の漢字には読みがなをつけ、カタカナは漢字に直して書きましよう。

① 丈夫な体。

じょうぶ

② 洋服の汚れ

よじれ

③ 辞書をカす。

かす。

④ ケシキ

景色

各冊子共通①の復習（平成二十五年度 埼玉県国語教育研究会 中学校学力調査問題）

2 次の文の文節の数を答えましよう。

これはまさしく、地球が丸いからこそ起こった現象です。

6

冊子番号1の②(1)、冊子番号2の②（平成二十五年度 埼玉県国語教育研究会 中学校学力調査問題）

3 文中の——線部の言葉を、敬語に直して□に書きましよう。

校長先生から、賞状をもらいました。

いただきました。

冊子番号1の③、冊子番号2の③冊子番号3の③（平成二十六年 人間地区国語教育研究会 学力調査問題改）

4 次の——の慣用句の□に入る漢字はどれですか。あとの1～4の中から適切なもの一つを選び、その番号に丸をつけましよう。

明日から林間学校だと思おうと□がおどる。

- ① 胸 2 腹 3 腰 4 腕

冊子番号1の⑦(4)、冊子番号2の⑦(6)、冊子番号3の⑥(5)（平成二十五年度 埼玉県学力調査問題）

5 上原さんは、埼玉県の特産品である「狭山茶」について深く知るために、茶業研究所の石田さんにインタビューをしました。上原さんの「インタビューの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【インタビューの一部】

上原… 狭山茶について教えてください。よろしくお願いします。
 石田… はい、お願いします。
 上原…
 石田… 鎌倉時代だといわれています。
 上原… それから今まで、ずっと作り続けられているのですか。
 石田… 戦乱の時代に一度は作られなくなったけれど、江戸時代に復興し、それからずっと作り続けられています。幕末に横浜が開港してからは、お茶は重要な輸出品にもなりました。
 上原… 長い間作り続けられるということは、埼玉県は茶の生産に適しているということですか。
 石田… お茶の木は、水はけがよく雨の多い土地を好みます。そして暖かい土地では生長が早いので、何度もお茶の葉をつみたくさん収穫することができます。狭山茶の産地、埼玉県南西部は、火山灰が降り積もってきた土地なので水はけがよく、雨も多いので、茶の栽培に良い条件なんです。
 上原… では、埼玉県はお茶の生産にぴったりな土地なんですね。石田… はい。ただそこには、生産者の工夫や努力もあります。
 くインタビューは続く

- (1) 上原さんの発言の「ア」には、どのような言葉が入りますか。あとに続く石田さんの答えを参考にして、次の1〜4の中から一つ選びなさい。
- 1 狭山茶はいつごろから作られているのですか。
 - 2 狭山茶はいつごろ復興したのですか。
 - 3 狭山茶はいつごろ輸出されるようになったのですか。
 - 4 狭山茶はいつごろ作られなくなったのですか。
- (2) 上原さんのインタビューの進め方を説明したものと最も適切なものを、次の1〜4の中から一つ選びなさい。
- 1 自分があらかじめ調べてきたこと、知っていることを先に話し、会話の流れをよくしている。
 - 2 用意してきた話題を次々に提示して、短時間でできるだけたくさん質問ができるようにしている。
 - 3 相手の答えを受けて、理解を示しながらさらに知りたことと、思ったことを質問し、話を広げている。
 - 4 ただ答えを聞くだけでなく、相手の話をくり返し、自分が聞いたことを確認しようとしている。

(3) 上原さんは、狭山茶についてインタビューして分かったことをまとめた「カード」を作りました。この「カード」を使ってクラスで発表する時の「発表原稿」を書こうと思います。これをもとに「発表原稿の第四段落」を、次の条件1から条件3に従って書きなさい。

【発表原稿】

- 条件1 六行以上、九行以内で書くこと。
 条件2 「ただし、埼玉県は」に続くように、また、⑤段落に続くように書くこと。
 条件3 「寒い」「茶の葉をつむ回数」の二つの言葉を、両方とも使って書くこと。

① 埼玉県の特産品である狭山茶の起源は古く、鎌倉時代までさかのぼります。八百年以上もの長い間作り続けられているということは、埼玉県がお茶の生産に適した土地だということなのでしょうか。

② お茶の木は水はけがよい土地、雨が多い土地を好みます。また、暖かい土地では生長が早く、何度もお茶の葉をつむことができます。


③ 狭山茶の産地である埼玉県南西部は、水はけがよく、雨も多く降ります。その点ではお茶の栽培に適した土地だと言えるでしょう。

④ ただし、埼玉県は

⑤ こうして作られた狭山茶は、濃厚でコクのある味で人々に愛され、埼玉県を代表する特産品になっています。

【第四段落】


① 狭山茶の歴史
 埼玉県の特産品、狭山茶
 鎌倉時代から800年以上作り続けられている。



② 茶の木の好む土地
 ア. 水はけがよい土地
 イ. 雨が多い土地
 ウ. 暖かい土地

③ 埼玉県が茶栽培に適している点
 ア. 水はけ
 狭山茶の産地、埼玉県南西部は、火山灰が降り積もってきた水はけのよい土地である。

イ. 雨の量
 埼玉県南西部は雨が多い。



④ 狭山茶を作るうえでの工夫・努力
 埼玉県は他の茶産地より北に位置しており、それらの産地に比べ寒い。

茶の葉をつむ回数は年2回
 (鹿児島県は年5回)

寒さに強い品種に改良
 寒さにきたえられた肉厚な茶葉をいやす茶作り

ただし、埼玉県は他の産地より

も北にあり、寒いとい	りま。そのため、茶の葉をつむ	回数(年2回)で、年5回つむ鹿児島	島県に比べると回数が少な	てしま。そこで、寒さに強	い品種に改良したり、肉厚な茶葉	そい。茶作りをいやすなど	えしてしま。
------------	----------------	-------------------	--------------	--------------	-----------------	--------------	--------

9行 6行